

静岡県消防防災航空隊



●静岡県消防防災航空隊の概要

発足	平成9年4月1日
基地	静岡県静岡市葵区諏訪8-10 静岡ヘリポート内
運航時間	365日体制で、8時30分から17時15分 (ただし、緊急運航は日の出から日没まで)
隊員	県内の7消防本部より派遣された(優秀な?)8名の救助隊員
運航	民間委託 静岡エアコミュータ株式会社(操縦士と整備士毎日各1名)
機体	川崎式 BK117 C-1 (川崎重工業製) 平成9年2月導入(登録番号 JA119R)
エンジン	ジェットタービンエンジン (692shp(軸出力)×2基 ジェット燃料(JET-A1)を使用
最大離陸重量	3350kg 待機重量 2620kg(燃料・装備品含む) 有効搭載重量 730kg(隊員、救助器具、要救助者など)
乗員	最大11名 通常10席 普段は救助使用のため座席はなし
機体色	白色ベースにオレンジ、緑のライン(オレンジはみかん、緑はお茶をイメージ)
最高巡航速度	約250km/時(新幹線ひかり号並みで移動)
飛行時間	約2時間から2時間半(重量及び飛行の内容で変化します。)

●主なヘリ装備品（抜粋）

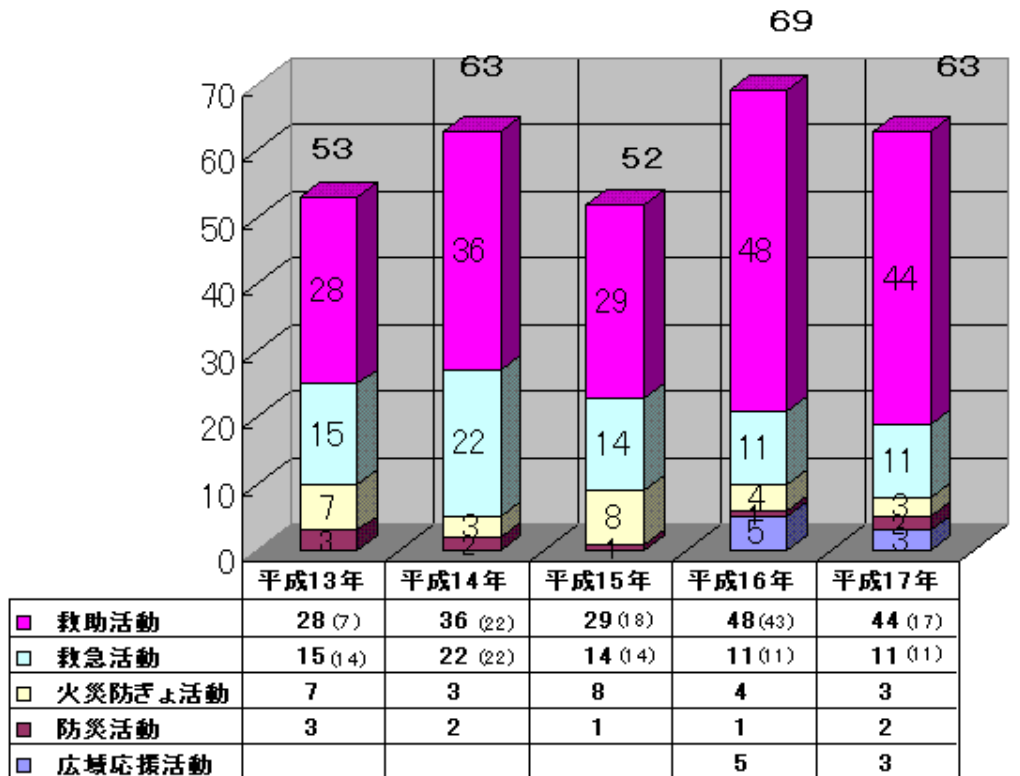
レスキュー ホイスト	90mワイヤーのホイストウインチで要救助者を吊上げます。	リペリング キット	降下時に支持金具でロープを結着しヘリから空中降下します。
消火用タンク (ベリータンク)	ヘリコプターの下に取り付け空中から水を散水消火します。	ヘリテレ伝送装置	機外に取付けたカメラにて災害状況等をリアルタイムに把握し映像情報を配信します。
機外スピーカー	上空から広報活動を行うためのスピーカーです。	カーゴスリング	機外で貨物を吊下げ、物を運びます。
サーチライト	夜間1km先まで照明可能な投光装置です。	消火バケツ パンピバケツ	機外に吊下げ空中消火のため消火剤又は水を入れる容器です。
スノースキッド	雪面着陸の際、機体が雪に沈み込むのを防ぐ装置です。	担架固定装置	救急搬送の時ストレッチャー担架を機内で固定します。

●活動用資機材

隊員装備品	陸上救助用（活動服、航空用縛帯、航空用ヘルメット、安全靴） 水難救助用（ウェットスーツ、ゴーグル、フィン、水難用縛帯） 山岳救助用（登山靴、ヤッケ、雨具、ゴーグル、救助用ヘルメット）
救助用機具	デラックスサーバイバースリング、エバックハーネス、シンチストラップ パーティカルストレッチャー、レスキューストレッチャー等の救助器具 ザイル、カラビナ、エイト環、登降器等の降下用器具 テント、ランプ、寝袋、コンロ、山岳レスキューキット等の山岳救助用品
救急用品	ストレッチャー担架、心電図モニター、AED、オートベント（酸素吸入器）、 バックボード、吸引器、救急バッグ（各種応急手当用具）、消毒薬、100V電源供給装置他
その他	衛星携帯電話、携帯無線機（防水型無線機×1台）、情報収集バッグ（カメラ・ビデオ等）



●緊急運航出動内容



※広域応援活動については、平成16年から件数をカウントする。なお、()内は救助・搬送人員

●災害活動・訓練

救助活動



平成17年夏

御前崎海岸に磯遊びに来たグループが、潮位の変化に気付かず岩場に取り残され岸に戻れなくなってしまったもの。

要救助者5名を県警航空隊と連携し岸まで曳行した。

(写真提供：静岡県警察航空隊)



平成17年夏

榛原郡本川根町の沢において溪流釣りをしていた男性が沢に転落したものを。

地上消防隊の進入が困難な場所であり、航空隊員を3名降下させレスキューストレッチャーにて引き上げた。



平成18年春
浜松市岩岳山において道に迷ってしまった
4名の捜索を実施し救出活動を行った。

(写真提供：静岡新聞社)

火災防御活動



平成18年冬
山梨県大月市の林野火災に広域航空消防
応援に基づき出動。
33回散水を実施。計14,950ℓ散水

救急搬送活動



平成17年秋
臓器（肺）搬送の要請があり、浜松医科大学
付属病院から大阪大学医学部付属病院へ搬
送したもの。

訓練

バンビバケット散水



隊員ホイスト降下



リペリング降下



水難救助訓練



●おわりに

静岡県消防防災航空隊は平成9年4月1日より県内7消防本部から8名の隊員を迎え静岡県内の安全を空から守っています。

航空救助業務は、活動の特殊性と職務の危険性に鑑み予期せぬ事象が発生する可能性が高いため、二次災害を起こさないよう最大限の安全管理に心がけて活動しています。

またヘリコプターは「全天候型ではない」ということです。基本的にヘリは有視界飛行でありますので視界が確保できなければ飛行できませんし、天候悪化が明らかである場合は飛行を断念しなければならないことがあります。しかしながら、災害は多種多様化し航空救助もそれに対応していかなければなりません。そんな中、訓練ではあらゆる事案に対応出来るように常に問題提起を各隊員間で行い実践しています。

最後に、災害は「起こらない」「起こさない」事が最善なのですが、もし起こってしまった場合の対応と未然に防ぐアドバイスを下に記しましたので、ぜひ参考にして下さい。

今までの救助出動の事例から、皆さんにお伝えしたいこと。

登山を愛する皆さんへ

1. 地上からはヘリが見えても、ヘリからは確認出来ない場合があります。**尾根の上**等で救助を待ちましょう。
2. 救助のヘリに**鏡**で合図を送ると光の反射でよく見えます。手軽な装備なので、是非お持ちください。また衣服やタオル等を大きく振ったりするのも有効です。
3. 滑落事故の多くが登山道以外の下りで起きます。絶対に**道のない沢を下るのは止め**ましょう。

4. 夜間等の視界が悪い時の移動中に滑落等のケースがあります。夜はなるべく行動せず、迷った場合は**朝まで待って移動**しましょう。
5. 登山計画書の提出はもちろんのこと、近くの山の場合でも、家族の方に行く先（行程）と帰宅予定日時を連絡しておきましょう。
6. **山の天気は非常に変わりやすく事故が起こりやすい**ため、無理な行程は避けましょう。
7. 滑落事故で動けなくなり、**数日後に発見され無事生還**された方がいらっしゃいます。万が一事故に遭われても、決して**あきらめないで**ください。また**予備の「水と食料」**を用意しましょう。
8. **携帯電話**は使えない場合が多いです。使用可能ならば、警察・消防の指示に従い残バッテリーを大切に。アマチュア無線機（※免許が必要です）も同様です。

マリナー等々をされる方々へ

1. 海で流された場合、体力が勝負です、漂流物等があればつかまって**体力を温存**しましょう。浮かんでいれば、助けが来るまでの時間を稼げます。
2. **ウェットスーツ**は体の保護、保温と同時にその浮力で、あなたの生命を守ります。ウェットスーツや救命胴衣を着用しましょう。
3. 単独で、仲間から長時間離れる場合は、連絡しておきましょう。誤報のもとになります。
4. 水難事故における救助は時間の勝負です。仲間だけで捜索するのではなく、**事故が発生したら、すぐに118番（海上保安庁）、119番（消防）に連絡**しましょう。
5. **増水している河川は非常に危険**です。川遊びは安全な場所と時を選びましょう。
6. **アルコール**を摂取しての水遊びは危険です、アルコールはほどほどに……。
7. 溺れている方を助けるときは、まず、**自分の安全を確保**して救助しましょう。
 - できるだけ、**水に入らず、ロープや棒、竿等**を使い救助する。
 - 自分が水に入る場合は、**ウェットスーツ**や、**救命胴衣**を必ず着用する。
8. 防水パックを使用した**携帯電話**を携行しましょう。そうすればいち早く救助の手が差し延べられます。